



三勺糸

首







知毛の勢——の勢——に  
以てこの入禮、焼くす、届かき  
月日はさういふおもしろいものも  
おもひ、病ひを、おもしろく、禮  
之を、勢、つ、ま、おもしろい、年  
久ぬのを——め、——あ、  
月、十二、おもしろい、おもしろい、  
さう——も、つ、おもしろい、

ハ、さ、——、さ、——、人、  
さ、の、勢、さ、——、つ、  
ち、お、さ、さ、——、お、  
お、さ、の、い、お、さ、の、勢、  
——、の、勢、つ、牛、の、一、  
も、及、ふ、つ、お、さ、の、勢、  
お、さ、の、勢、つ、人、の、勢、  
——、玉、つ、さ、さ、

晴半川庵雜歌

馬三勺集



春之部

歳旦

暁来や芳雪のうきまを老無き

秋暮高下ふらふ

ふりては所なきに

親の時をよむふらふは好のま

いねは守りてはふらふぬ中多

解乃多は秋枝暗あて

砂利に空乃得之粒を懐よ  
くく道は時の中あは道はつる喜  
交りは船陽自もく馬番乃喜  
若くは空はきんや一丸  
首くは春もくはふくま  
も乃くはくは中少我家にきん  
ふれくはくはくはくはくは  
くはくは  
若くは春もくはふくま  
若くは春もくはふくま

やかすふあ(連)にさすはくはくは  
くはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくは  
病後乃春止  
くはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくは



那等風乃久ふし終はそく初子乃日  
公養の道とまはしむ形く候初子日

正月

正月や初めのまじりたるけしやまは  
正月や名もあつたはる雪天相  
正月やふすは味もさへ買ふま  
正月やむすまのあき標乃花  
正月や坐乃も持ふ無く候と

人日

しとくまほきとせしそまの菜  
あつたけしや菜形ぬをまの庵  
山田と亭なむらうまはる菜哉  
人乃日や短冊重子松乃京  
柳乃木柱あつたけしやまの菜  
藤乃菜やまのあまはるまはる

芥

嬉しきの先ふしやけしや芥  
芥摘乃喜代し菴々新



げん子芥のち、ぬるやちのれい

石炭 けいりう子

万葉乃松くさのまきさくくわあ  
まきさくくさのまきの様ち別無  
三巻赤や黒い—さの包まも

梅

誰くさぬあ〜〜〜せ松乃花  
松乃花さくくさのまきの三巻赤  
けいりう子かま〜〜ぬ松乃花

梅さくくさぬあにぬのまきさくくわあ

月後梅影

伴 清 吟

秋深きくさくさつら連なり 松乃花  
松乃花さくくさのまきのまきのまき  
松の松さくくさのまきのまきのまき  
松乃花さくくさのまきのまきのまき  
梅乃花さくくさのまきのまきのまき  
梅乃花さくくさのまきのまきのまき  
梅乃花さくくさのまきのまきのまき

名角一々見は川次新乃旭哉  
く社さし女二月やいと新氷は  
白雲さう血之痛とす多るは梅も  
新さくや新けきと業の口教り  
新さくや新に新はるる新し  
四五新乃る社とさほりに新乃春  
さうた新新の心新しう新也  
さうははははははははははは  
新の業さあしおはははははは

新さくや牡丹乃もくくは出さ  
わさけや新はあふさ新乃春  
新さくや新さくはははははは  
新さくはははははははははは  
うめ乃本とさ新も新す新乃春  
新さくや新しははははははは  
新さくはははははははははは  
新さくはははははははははは  
新さくはははははははははは  
新さくはははははははははは



常也一松よととまにまもはる

白魚

白魚ふらうほの匂いは形ゆ程  
ふ魚や山す我得す方あり  
きり魚やしんて靴魚に鞋ゆ  
落れれば出魚しぬありり

霞

古余は時や掃と女松葉清き  
未は清ひ乃味事居ふあう

老ふはあはらうまき  
あまをくく女清はつれ  
うす清れを形ぬる色を女あり  
於時乃あはれも後と与れ  
あまはれをうすめりあはれ  
あまはれをうすめりあはれ

春風

あはれをうすめりあはれ  
あまはれをうすめりあはれ

夕東風やわが枝さうわに波乃香

柳

夢柳や夢々々々形は後々々々  
古心々の園ふあまきし柳の難  
美垣まきし柳のあてはる柳哉  
むし見えし様様をほく不辨うな  
悲ふも無故も目あ理夕希  
昔柳やいふ秋葉のつすれ柳  
半島に岩抱るはやう柳さうけ

さし心なきかへん入る  
大木もくさくさくさくさくさく  
写経のよきものかへん入る

椿 本乃芽

これほいふかへん入るの外さう  
新なるまきに到る椿の青  
山中をなすものかへん入る  
きり木の種十倍子芽をり  
徳代おのあまきおまき芽吹

條

蝶の羽はりも逢ねるよ望や吹  
きといふ後も時をく括やくおぼせん  
蝶さき何とあけ年六うううか某

小倉小下

蝶さあや子可の海を流るはす  
海却こりき成て冬さあのか  
一舞ふ蝶のオアはあさるあ  
蝶さあやあやああ一人さあさ

子代全下身孫の幸さきく蝶さあ  
蝶さあやあああああああああ

蛙 四冊

幸蛙さあああ、はとほこり  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ  
あああああああああああ



いさのせ方めさるるは 俚無儀  
筆を飛口ふりゆく 彼岸身

子代乃松東おす

北東のけふは夕日や 俚無儀  
ころれ下 橋ふあは勢いんり

花様

をれ乃本村いそ程いそぬ 口刺部  
老をま川いそすたら 道にゆ様  
う世人の 数まこす 在川様

を川たれ様 始お人へり 出合乃り  
花にまへ ありれ 若やとまへ 此れ  
まよとまへ 寛まのまも 年りま  
まのまへ 淋しみのまへ 山様  
ありち舟や 若とまへ 法形おし

あしとまへ 誰仙おいそま程  
夕道は 海傳おる ころれも  
ころれも 毛に 一語 親乃 孫  
あしとまへ 中 形乃 けり 喜







夜のそらにありて、  
茶袋のや、  
以月、  
若乃、  
い重垣乃、  
如月、  
聖乃、  
三月、  
夜様、

高乃、  
ゆら、  
うも、  
下戸、  
山奥、

陽炎 糸遊

陽炎や生、  
う子、  
傷、



物とともすつ羅りし事いそ成りま  
山吹や根子孫先乃破雪步行  
落乃臺打の出入るれあふ  
あふや程深ふく事い五年跡  
やうさや芽もつる勢足に福活を  
もつたすてあえれとてい哉

柀 籬

柀乃旭也たつ清いふ老乃情  
おれし一冢中柀乃朝日二日哉

柀乃日やうす利老を物お後す  
道六ふ中けく柀苗苗白哉  
老乃素旅子住津く口教る程  
柀きくや常しく何を柀乃神  
何きたのな名れや柀よ柀の意  
柀ほあも言代わさし何言  
孫娘の素さけりけく柀を後  
まうくたに山も南をけ結らぬ  
言はるや舞よハハ都乃く衣

かゝる居老をわ〜まか親乃離  
離のりや〜旅ふるまに水  
離れりや〜可申さ〜は〜道〜  
え接り〜老々格二麻を射乃海  
〜射乃市にわ〜買

春日 弥生

まはるや〜ま〜門掃物  
〜理木乃〜  
〜骨乃射乃海

〜のりや〜捨〜  
〜は〜  
〜乃〜  
七〜乃〜  
〜乃〜

長閑 雲ふ入鳥

若〜  
子代乃松系

福山









竹根妙了し出のまよる竹の山塔哉  
も子存らふらんこゝろのまよる  
は遠きす昔とる遠の人の喜口酒  
鏡よ常しやあまきとやしと出し  
初めの鏡よつる後のおたさわし  
常の鏡よの落の昔を跡さぬ  
竹根の句らゝい春しや春は月  
火井林火く門了し人まの雪  
こちとれ乃美村ふやわの朧月

も竹のおちや思ひ持は川まを  
まのあまこも居まの山米花  
初まや水んそ米つるお松茶権  
まをやとくきまは歌は米  
常の味しやまけしまの句仕度  
おおやとわすくぬき學は  
昔しと無おまのまぬ榮録は  
鏡世ののたはまのわし  
松乃とふとたえきばも静也

二月めく鴨の心くもや暮れ暮  
暮のしもはるはるの春も  
穀入る姉禁乃松を心く理  
急痛白や夜し川を心く暮れ水  
涙の涙を唇うねや雨を心く  
永日下けはりも遠はぬ併く苗  
八月ととくくく美れくはる  
活きのこまきと葱と暮れ水  
火城共くく春くはる改干哉

高三句集

夏之部

更衣

新や昔與葉ふおしはるはるく  
山川ふふ髪はるく衣更  
衣衣るくくく玉乃くおり  
きく理せはるくく水衣文  
健乃敏れくく結可南  
お様より武彦く結く給く水

福らの素女日無行寸三後もく  
私おろやら寝るやされ衣更  
る後もく川魚く一的のりり  
あきとら新し連や及了塔

權佛

清仏や人の主は海の塔

とふらうやう

やうかくつ中事一ふや佛生念  
未昔才ふれ名才不仏生念

ふん冬冬もく 何 花御堂

短歌

紫女戸や藤ねの家わぬやまき  
短歌やまき藤ね乃葉一杯  
三 花乃水山をうは夕  
短歌乃私ふまきくつ連う花  
赤川乃歌や下れをう下敷をま  
及乃花やけ一花をまぬ家も花

夏乃月

友乃月松やまろく種あせりて世  
神表道乃とや象形とて友乃月

卯月

梅檀乃馬に不れえく卯月と種  
老佐の何〜卯月と

卯月

口長くす種〜卯月ハ口と飛  
味情と成す〜卯月と

卯公

玉乃種も川ふ苗もと種と種と  
星羽帝ま〜種と種と  
松分無他多の種と種と  
蜀意多ま種と種と  
才多越人や種と種と  
種乃木に種と種と  
三種と種と種と  
種と種と種と種と  
本と種と種と種と

是乃中一あも果きいそ杜鶴  
時多啼すも老乃波色を會  
親しつまの山もなつ浪郭公鳥  
せさるも人のわらふもさぬ時多  
くろくくくや

き一月七かのひあつとあもや五親  
おきまの麻布江江戸の外山  
さう代入やきうはしし種や時鳥  
洗研のまきさるはあつ浪ぬめ帰

是乃ねをり郭公に鳥影つるも理  
うはあ我れはつひさや郭公を  
本と波真義の報もあつと  
かきつるほく老入何しとよ郭公  
と知の関もやしお飛とや時多  
おつほの報つれつとくお不如帰

箱根山中

やうすに浪揚りもあつと郭公  
閑乎鳥

つよ手きる蓮華 根のむらさき  
かんとく程よくけせし先くはふら程

牡丹

秘ありはと努るふせし牡丹  
稚子の時宜ふとく居る牡丹哉

寄書向老人

歌をわらう

つよふ形もさうし牡丹はいされり  
秘ふ居る牡丹哉牡丹哉

若葉 了楓

形まゝいふ様を植たりいさる時  
鳴きありの樹もさうさう了葉もれ

四方各處乃ねさめはゆたも

ふまゆふさうゆたも

字にふ存行さうし了葉可程  
あらしれさやうの葉をさするあ

病中

お病に居る日物のさすいさる  
あさきやうとさうなも了か

住子海すく〜おをうまにうす楓

茂 茂木主

金倉に別まて〜道入茂り薪  
火を焚く〜柄めすは〜け理る  
別まて路や〜お持り茂る木立  
多あもまはり〜おり茂る木立

致 幡

杉のさすや〜表の筑波のえや〜  
杉のさす〜居る〜常〜致り

致金鳥致致不足を〜おす〜

もの書や〜致致〜おす〜  
産す〜おす〜おす〜街示  
〜おす〜おす〜おす〜人おす〜  
幡〜おす〜おす〜おす〜  
〜おす〜おす〜おす〜  
〜おす〜おす〜おす〜

雲

おす〜おす〜おす〜おす〜



何れもいふやうな後まがきつた次口  
書つるやうな書つたよの傍ら

田植

田植つていふ後まがきつた次口  
川上の方田植つた後まがきつた次口  
の書つたよの傍ら

寸書つた田植

うたふたつた後まがきつた次口  
苗つたよの傍ら。田子花や田子花

子乙女やうのぬれまがきつた次口  
の書つたよの傍ら。田植つた

五月雨

五月雨つたよの傍ら。田植つた  
五月雨つたよの傍ら。田植つた  
五月雨つたよの傍ら。田植つた  
五月雨つたよの傍ら。田植つた  
五月雨つたよの傍ら。田植つた

いこ乃山

白く雪乃りきしつらふあしとる年乃山  
松より白平乃口わ乃活溪より  
糞も門とわしきし一年乃山

芥子 雪梅

静さやに産ふ南なき一雨にけ  
おのゝるゆめしきや芥子雪  
雪梅は一粒採や子姑月  
くやまへん葉くれ梅入雪のき

菅蒲 社善

わすれぬく古郷ふきさつらる林  
彩りもえけしきも原もあのおいぬ  
寺とつら治の里よすら社善

工毛 長福寺

明くも木村好くまのそと来婦の

雪田 風薫

快書くふあつしす雪田の  
里へのきししはの雪田哉



水年月 蟬

五月月廿拾妻のく身はさか  
六月や十日くさくしり子柄  
六月やきゆふやけふのそ  
水毎月若く別く明や多きこと  
六月乃帝中はく切る花より  
啼蟬のやうにやとる  
涼きやけく味入る理蟬のそ

納涼

門涼一馬もあつふ美りむせ  
涼一さをむかふとむかふ木草

後河乃旅り

すくしけの帯ふやう九三番  
涼一さをむかふとむかふ料理  
涼一さをむかふとむかふ料理  
涼一さをむかふとむかふ料理  
涼一さをむかふとむかふ料理

氷室

涼一さをむかふとむかふ料理



のハおりに樟々 詠唐の月秋が  
慈子茂る中に 非朋の形事  
ま干乃口毎うあ 亦るは簾る南  
山は嶽のうう 葉あの方了こりり  
灯やりの重雲枝さ わせー甲斐と形一  
ふんや 草叟と 蹴きはつろとを  
篋中亦枝さ 是つに 里乃 浴り 水  
友乃 之 後 此 限り 忘る 火 車 小  
若葉ふ 何と した 馬の 不 存 哉

わ 老 を と わ 形 ず 形 亦 竹 柱 入  
錫 半 一 の や 水 中 形 亦 形 ず  
様 々 形 ず 形 人 亦 形 亦 形 ず  
滴 岩 亦 形 一 度 亦 形 亦 形 ず  
出 形 亦 形 乃 形 亦 形 一 度 亦 形 亦 形 ず  
此 深 の 亦 形 亦 形 一 度 亦 形 亦 形 ず  
亦 形 亦 形 亦 形 亦 形 一 度 亦 形 亦 形 ず  
亦 形 亦 形 亦 形 亦 形 一 度 亦 形 亦 形 ず  
亦 形 亦 形 亦 形 亦 形 一 度 亦 形 亦 形 ず  
亦 形 亦 形 亦 形 亦 形 一 度 亦 形 亦 形 ず

ふれ海ももあけゆくきりて  
わけなきも若はりあれとふ倉山  
な心龍やとりきりては 勝つて後  
おてわらに冬水き合歌の誓我  
も計ふもえろすえりるも子入る  
花種うほおもうけあわてしんを  
あさるぬ路りもたもや沖 鑑  
松乃木ア〜た〜か〜し〜羽拔を

病中

葭切の帯よもあけし枕を

被雲飯を

石二乃のきりすりてきき乃の哉  
鴨の子れ子若是も〜ゆ〜ゆ〜  
何〜ゆ〜知まもは〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
ま〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

御被

〜ゆ〜ゆ〜馬遊とすは御被哉  
牙乃清被おふも〜ゆ〜ゆ〜所作也

晴くつ我人の出く来るは接し  
流しを尋河原よりよきとて接し川  
接しをれ大井桂を乃乃所接



